ティク・ナット・ハン年表

ティク・ナット・ハン師の誕生から現在に至るまでの歴史を、主な出来事をピックアップして年表を作成した。

作成：島田啓介

一九二六
●一〇月一一日ベトナム中部フエ市にて出生。

一九四二
●一六歳トゥヒュウ（慈孝）寺で沙弥出家し入門僧となる。法名ティク・ナット・ハン（釈一行）。

一九四六
●第一次インドシナ戦争始まる。「今日の仏教」など数冊を上梓し、平和活動を開始。

一九四九
●三三歳で正式に僧となる

一九五〇
●初めての禅道場を創設。

一九五四
●サイゴンのアン・クワン（印光）寺の創立に共同で着手。一九六一年まで教える。
●全ベトナム仏教徒協会（AVBA）で、編集、出版、執筆活動に従事。「季節の初めに咲く蓮の花」の編集主幹になる。
●七月二一日ジュネーブ休戦協定成立　ベトナムの南北分割。

一九五六
●釈迦生誕二五〇〇年の式典への出席のため初来日。

一九五七
●サイゴン近郊の山地に仲間と「フォン・ヴォイ」仏教共同体を建設、活動の拠点とする。

一九五九
●サイゴン大学の女学生フーン（のちのシスター・チャンコン）に出会う。

一九六〇
●弾圧にあい、フォン・ヴォイを追われる。竹林寺に避難し、「十三本の杉」の仲間とともに平和活動を推進する。ベトナム戦争の激化。

一九六一
●プリンストン大学から比較宗教学研究のための招聘を受け入れ渡米。

一九六二
●コロンビア大学で教鞭をとる。

一九六三
●戦況のさらなる悪化。仏教徒の弾圧。六月一一日クアン・ドック師による焼身供養の抗議がある。
●即時停戦を訴え全米を講演。国連への報告。断食の祈り。
●ゴ・ディン・ジエム政権の崩壊。
●仏教界からの要請を受け入れ帰国。ベトナム統一仏教教会（UBCV）に「三項目の提案書」を提出。

一九六四
●各地に「自助村」を建設。サイゴンに仏教研究所を創設し、これが発展してヴァン・ハン（万行）仏教大学となる。
●ラ・ボア出版社を設立し多くの自著を出版。

一九六五
●社会福祉青年学校（SYSS）の活動を開始。ヴァン・ハン仏教大学のプログラムに組み入れられる。

一九六六
●SYSSの六人のメンバーを在家得度し、「ティプ・ヒエン（インタービーイング＝相互存在）教団」を設立。十四戒をもうける。
●四〇歳、トゥヒュウ（慈孝）寺で法灯を授けられ、ベトナム臨済正宗竹林派の第四十二世法嗣となる。
●ベトナム戦争早期終結を訴えるため再来日。
●アメリカ友和会（FOR）とコーネル大学の招きで再渡米。各界の著名人と交わり戦争終結のために奔走。
●ワシントンDCにて五項目の平和の提案を行い、それゆえに帰国不可能となる。

一九六七
●キング牧師、ティク・ナット・ハン師をノーベル平和賞に推薦。
●SYSSの中心的なメンバー、ナット・チーマイの焼身抗議。

一九六八
●一月三〇日テト攻勢。ベトナム戦争終結の転機となる。

一九六九
●事実上の亡命先となったパリにて、仏教平和使節団、統一仏教教会（UBC）を設立。パリにオフィスを構え、機関紙「蓮」を創刊。

一九七〇
●アルフレッド・ハスラーとともに戦争と、環境破壊、貧困に取り組むダイドゥン（大同）運動を開始。アメリカ、ヨーロッパ全土を講演活動で回る。

一九七三	●パリ協定でベトナム仏教徒首席代表。 ●ソー市にて七人の仲間とともに共同生活を始める。
一九七五	●フォンヴァンヌに初めての瞑想センター、スウィートポテト・コミュニティを建設し一一人の仲間とともに移住。執筆、戦争孤児の里親探しと難民支援に集中する。
一九七六	●シンガポールでの世界宗教者平和会議に出席。ボートピープル救済のために奔走。
一九八二	●フランス南西部ドルゴーニュ地方に、僧院・瞑想センター、プラムヴィレッジを創設。 ●ニューヨークで命を尊重する会議に参加。東洋の文化と瞑想への関心の深まりを実感する。
一九八三	●プラムヴィレッジで初めての公開リトリート。 ●カリフォルニアのタサハラ禅センターにて、本格的リトリート開催。 ●一九八〇年代より、アメリカをはじめカナダ、ヨーロッパ全域、オーストラリア、ブラジルなどをめぐり、マインドフルネスの実践を伝え始める。
一九八八	●インドへ仏跡巡礼の旅。フーンの出家。「チャンコン（真空）」という法名を得て尼僧となる。
一九九二	●ベトナム、ドイモイの開放政策により各国から支援の活発化。プラムヴィレッジの支援は世界が直面する様々な問題へと広がる。アメリカでの講演、リトリート活動の活発化。
一九九五	●十数名の弟子とともに三週間の来日ツアー。東京と大阪で講演。神奈川と山梨で数日間のリトリート。京都と鎌倉でマインドフルネスの一日と僧侶とのミーティングなど行う。
一九九七	●バーモント州にメイプルフォレスト僧院創設。
一九九八	●バーモント州にグリーンマウンテン・ダルマセンター創設。 ●アメリカを統括する非営利の宗教団体 UBC, Inc. の創設。
二〇〇〇	●カルフォルニアにディアパーク僧院創設。
二〇〇三	●アメリカの連邦議会で講演。●韓国滞在中に僧・尼僧の戒律の改訂を発表。

二〇〇四	●ディアパーク僧院にて、世界のプラムヴィレッジサンガの結集。
二〇〇五	●ミシシッピー州にマグノリアグローブ僧院創設。●七九歳で、一九〇人を伴い約四〇年ぶりのベトナム帰国。寺院を訪問、数多く講演。ベトナム語の書籍出版。トゥヒュウ（慈孝）寺とバットナー（智慧）寺の再興。
二〇〇六	●パリのユネスコ本部で講演。
二〇〇七	●ニューヨーク州にブルークリフ僧院創設。 ●一七〇人を伴い二回目のベトナム帰国。北、中央、南の三か所でそれぞれ三日間かけベトナム戦争犠牲者のための大規模な追悼法要を行う。大統領と会見し、仏教界への抑圧を解くよう要請。
二〇〇八	●ハノイのウェサク祭に招かれる。政府によるバットナー寺の弾圧。活動の禁止。●ドイツにヨーロッパ応用仏教研究所（EIAB）設立。●インド国会で開会の辞を述べる。●ウェイクアップムーブメントを開始。
二〇〇九	●プラムヴィレッジ・タイランドの建設開始。 ●肺炎を再発し、ボストンで入院。弟子とサンガだけによるリトリートを行う。
二〇一〇	●オーストラリアでナップリュー（流入）僧院と瞑想センター設立。 ●「応用倫理（Applied Ethics）」プログラムを世界各地で開始。 ●カリグラフィー（揮毫）の個展を開始。
二〇一一	●香港にアジア応用仏教研究所（AIAB）設立。 ●アメリカの連邦議会で第二回の講演。●グーグル本社でのリトリート。●来日計画があるが中止。
二〇一二	●英国議会と北アイルランド議会で慈悲と非暴力のメッセージを伝える。
二〇一三	●グーグル本社での第二回のリトリート。
二〇一五	**●再来日の予定。**（八八歳）